

令和7年1月7日（火）令和6年度 第9号



さいたま市立泰平中学校

学校だより

さいたま市北区本郷町 1991 電話：048 (651) 4134

【教育目標】

豊かな心を持ち実践力のある生徒の育成

【目指す生徒像】

季節の花と明るい挨拶にあふれ、
生徒一人ひとりの夢と生きる力を培う学校

－大好きTAIHEI－

「巳年を迎えて」

校長 宮内和典

生徒の皆さんの正月はいかがでしたか。穏やかな新年を迎えることができたでしょうか。新しい年を迎え、思いを新たにできたでしょうか。「1年の計は元旦に有り」と言いますから、皆さんも今年1年の目標を見据え、実現に向けて努力しようと決意を新たにしていることと思います。

さて、今年の干支は巳（へび）ですが十二支を漢字で表すと、子：ねずみ、丑：うし、寅：とら、卯：うさぎ、辰：たつ、巳：へび、午：うま、未：ひつじ、申：さる、酉：とり、戌：いぬ、亥：いのしし、と動物を意味する字とは違う字になります。これは、昔の中国で生まれた十二支の由来に関係しているようです。昔の中国では、「年」を数えるとき、木星の動きをもとにしていたようで、木星は12年で公転（太陽を1周）するため、当時の人は毎年木星の位置を示すために天を12等分し、それぞれ子から亥までの字（中国で数を表す数詞）をあてはめたことが、十二支の起源だそうです。その十二支を人々に浸透させるために、王充（おういつ）という人が、字が読めない人でも覚えやすい、動物に替えて広めたそうです。こうして、広まった十二支は、海を渡って日本にも伝わり、その頃には、十二支は年だけでなく、月や時間などにも広く使われていたそうです。時代劇や怪談話などで丑三つ時、という言葉を目にしたことがあると思いますが、夜中の3時頃を十二支で表すとそうなります。また、現在でも時間に十二支の影響は残っており、午前、午後というのは午の刻（うまのこく）の午から来ています。午の刻は11時から13時を指しており、その前半だから午前、後半は午後というようになっているということです。このように、干支のことを調べるだけでも、先人の「物事を観察し、変化に気付く力」に感心させられるとともに、その発見や活用の仕方が「生きる力」となって、明日に、そしてその先の人生につながって活かされていることに感銘を受けます。さらに、巳という漢字を語源辞典で調べてみると「『巳』は植物に種子ができ始める時期という意味。草木の成長が極限に達して次の生命がつくられ始める時期」とあります。

生徒の皆さんも、今年1年間、目的達成のための目標をもって1つずつ脱皮し、ぐんぐんと極限まで伸び、さらに大きく成長してもらえればと思います。しかし、極限まで伸びようとしたときに、努力しても目に見えるような成果として現れないときもあるでしょう。嫌になってやめてしまうときがあるかもしれませんが、課題はそう簡単には上手く乗り越えられないことを実感することも大切なことです。そして、そんなときに、焦らず、あきらめずに続けることの大切さを学び感じ取って欲しいと願っています。

子どもが極限まで伸びようとするとき、最大の支援者として保護者や地域の皆様、学校が協力して後押しを続けていきたいと思っています。昨年と同様に学校の教育活動への御理解と御協力をお願い申し上げます。

今年1年が、皆様にとってよい年でありますように。